

第521回 放送番組審議会

1. 日 時 2016年7月19日(火) 午後1時30分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 9名

出席委員 7名

委員 長	國分 正人
副委員 長	千葉 隆史
委員	三浦 茂樹
委員	恒川 かおり
委員	大橋 綾子
委員	佐藤 俊彰
委員	大内 敦

欠席委員 2名

委員	五日市知香
委員	照井 勝也

社側出席者

檜崎 憲二	(代表取締役社長)
山口 英二	(専務取締役)
青山 尚之	(常務取締役 兼 編成局長)
野田 喜代志	(報道制作局専任局長)
池田 学	(営業局長 兼 営業部長)
桑島 広実	(報道制作局制作部長)
廣嶼 文樹	(報道制作局制作部副部長)

事務局

遠藤 隆	(編成局 放送番組審議会事務局長)
小野 絢子	(編成局編成部)

4. 議 題

1. 「らどんぱ！（“鉄神ガンライザーヒーローズ” 開始）」
2016年7月10日(日)07:00-07:30
2. その他

5. 資 料（資料として以下のものを配布）

- ・ 視聴者からのご意見

6. 意 見

委員側意見

- 「鉄神ガンライザーヒーローズ」の初回に合わせて生放送するという演出がよかった。
- 親近感の湧く内容で、大人が子どもと一緒に見ても楽しめると思った。
- 主人公のヒーローが「子ども」という設定が、同世代の視聴者を引き付けている。
- セリフやキャラクターに方言が含まれている点が面白い。
- 他の特撮作品やアニメとの類似性はどこまで許容されるものなのか気になった。

局側

- 鉄神ガンライザーはシリーズ6作品目なので、主人公を子どもに設定するという新たな試みにチャレンジしている。
- この番組は岩手の未来への投資という意味で、子ども達が楽しめる内容を意識して制作するほか、将来役者や声優を目指す人をキャスティングするなど、頑張っている人を応援する気持ちも込めて作っている。

7月番組審議会（今回）のテレビ放送予定

7月26日（火）11:45-11:52「あなたと歩むテレビ岩手」

7. 議事内容

局側 今日の議題は「鉄神ガンライザー」を含めた番組で「らどんぱ!」というものになります。震災復興を目指し、また岩手の子ども達に将来元気になってもらいたいという気持ちで始めた番組が6シーズン目になりました。これまで、ヒーローのガンライザー役はいろいろ変わってきましたが、6シーズン目になり、タレントではなく一般公募の子どもに出ています。脚本は、弊社の廣嶋が担当しまして、自分でディレクションしながら苦労してやっております。ガンライザーだけではなく“アスリートきっず”など色々コーナーがありますので、皆さんからご意見いただければと思います。

委員長 今日の審議は「ガンライザー」という、我々の世代にはちょっと厳しい番組なのかと思うが、子どもの目線も含めてご意見いただきたい。

委員 最初に教えてほしいが、「鉄神ガンライザー」は15分でまとめ、後半は「らどんぱ」を放送するという構成はいつもなのか。それとも今回が特別か。

局側 今回は「鉄神ガンライザーヒーローズ」の初回ということで生放送しました。番組自体が「らどんぱ!」といいまして、「ぼんどら」の逆から言ったもので、その中で「ガンライザー」を15分やりまして、他に「アスリートきっず」などをお送りしております。

委員 番組自体初めて拝見した。あちこちにご当地ヒーローならではの雰囲気は漂っていて大人が見ても笑ってしまうというか、すごく親近感の湧く番組で、大人が子どもと一緒に見ても楽しめると思った。生放送ということで、視聴者からの反響などをうまく番組の中で紹介していて、視聴者としては親近感が湧きやすいと思う。等身大のお子さんが出ているし、公開ロケのシーンもあり、ロケに参加しているとなおさら親近感が湧くだろうし、そういう意味では1回目の狙いは分かりやすかったし、伝わったのではないかと思う。細かい話をすると、主人公の彼は何歳くらいなのかとか、もうちょっと演技やセリフの練習にどう努力したいかという所を引き出せばより面白かったかなと思うが、そんなに大きなお子さんではないので、そこは可能な範囲でということかなと思った。

委員 私は小学校2年の息子がいるので、彼の助けを借りながら見た。楽しく拝見したし、今回から小学校3年生くらいのお子さんが出られるということで、子どもが羨望の眼差しで見ている様子から、ヒーローが同世代ということが、番組を見ている子ども達に影響を与えるのではないかという意味で、これからすごく期待される番組だと思った。ランドセルを持って追いかけるヒーローなので、ところどころ笑いながら拝見した。物語の世界観が1回目だけだとよく分からず、過去のガンライザーが岩手のご当地を巡り、岩手の風土を伝える番組だというのは知っていたものの、第2話を見てようやく物語の世界観が分かった。1回目だけだと初めて見た人には伝

わりにくいところもあったと思うので、これからに期待かと思う。生放送で、もうすぐ夏という時期に桜のシーンから始まった時には、子どもも違和感があったようなので、そこは残念に思った。楽しく見ていたが、子どもが1箇所だけ怖がったところがあった。それはナッタ鬼という悪役がパッカー大佐に優しく下手に出た後で、急に感情を変えて怒りだすシーンだったが、そこに子どもがすごくビックリしていた。優しくった人が急に変わったりすることが、ドメスティックバイオレンスなどを想像してしまうので、すごくダメというわけではないが、少し配慮していただければと思う。今回ヒーローがすごくカッコいい男の子だが、この時代、女の子にも出てほしいなと思った。リアスマリンという女性のヒロインもいるが、子どもでも元気な岩手の女の子もいっぱいいるので、今後パートナーや仲間ができた時には、元気のいい女の子をヒロインにさせていただきたいなと思う。番組全体に関して言えば、コマーシャルもガンライザーが出てきたし、銀行のコマーシャルも素敵で入っていて、違和感なく見終った。「お金のなるほど教室」は子どもも一生懸命見ていたので、知識を子ども達に自然に伝えていくという事は、今後もしていただきたいと思った。あるシーンで英語の「ベター」を使ったセリフが何気なく盛り込まれていたが、小学生の子どもだとまだ分からない。分かりやすい解説が少しでもあると、教育的配慮が見えていいと思った。

委員 初めて拝見したが、非常に面白かった。子どもが小さい時には戦隊ものを毎回見ている、子どもは出てくるヒーローを、母親は出てくる主人公のお兄さんを目当てに見ていたことを思い出した。このようなご当地ヒーローを作っていただくのはとてもいいなと思った。登場する場所も地元だからこそ、どの場所でロケしたものか分かるので、子どもと「高松の池だね」などと話ながら見られるのが面白いし、方言が登場人物の名前になっているので、工夫されているのだと思った。主演の優心君がすごく目力があって驚いた。子どもが小さい時に親子で好んだ子ども番組は、分かりやすくて、テーマがはっきりしているものだった。例えば友情をテーマにして、友達が困っているのを助けるとか、社会的に悪い事に対して立ち向かっていくとか、何かをすごく大事にするとか、小学生の低学年までが対象かと思うが、見終った後に感想を言い合う親子もいると思うので、毎回テーマを入れてもらえると嬉しい。「らどんぱ」は「ぱんどら」の逆だということも今初めて分かった。お金についての豆知識コーナーや15分という集中できる短さで「ガンライザー」を入れて、それ以外はスポーツ関連の「アスリートきつず」などで構成されているということだが、スポーツだけではなく、岩手県内で実施されている様々な活動も紹介してほしい。「鉄神ガンライザー」に出演する岩手県出身のタレントの姫神結さんは全国テレビにも出ているようなので、そういうのを見て憧れる子ども達も沢山いると思う。テレビ岩手の出演を足掛かりに羽ばたいていったような印象を受けたので、番組内でも改めて紹介があるとよかった。

委員 一番印象的だったのは方言をふんだんに使っているところ。セリフの中に岩手弁が入っているのはもちろんのこと、子どもの時から何気に使っていた言葉がキャラクターの名前になっているのは嬉しいなと思った。地方のこういうヒーローものも、出来ればキー局で取り上げていただいて岩手弁を大いにPRしていただけたらいいなと思った。キャラクターだが、子ども番組なのにキャラクターをきっちり作っているところに驚いた。ナツタ鬼は人気のキャラクターになると思う。子どもの頃言っていた“なった気している”という言葉がキャラクターに反映させていて非常に納得性があった。キャラクター通りの演出で感心した。ナツタ鬼の声の方はどういう方なのか気になったので教えていただきたい。冒頭の高松の池での花見のシーンで、オダズが頭にピンク色のネクタイを巻いていたが、子どもサラリーマンの花見では必ず見かける様子なので、見た瞬間にグッときた。子どもと見ているお父さんも惹きつけられたシーンではないかと思う。あと戦隊ものだが、武器をもっていないところが非常にいいと思った。正々堂々と戦うというのは戦いの基本、暴力ということではなくルールがあると思う。自分が子どもの頃は殴り合いのケンカもしたが、今の子ども達は出来ない時代だと思う。学校や日常の中で暴力は絶対ダメだと言われていると思うが、こういった子ども向け番組の中で戦い方をちゃんと教えていってくれるのかなと、そういう使命もこういう番組にはあるのかと思った。

委員 我々が子どもの時は、「仮面ライダー」とか「ウルトラマン」などがヒーローだったが、このご当地ヒーローも、子ども達のヒーローになればいいなと思う。6作目ということで実際そうやってきているのではないか。他の番組やイベントにも「ガンライザー」が出演していて、イベントでは市町村のご当地ヒーローと共演することも多いようだし、ロケのエキストラに子ども達やお母さん方もたくさん参加していて、子ども達がテレビ局自体を身近に感じていると思う。岩手の方言を使い、新たなキャラクターのナツタ鬼などを生み出し、地元でロケをしていて、すごく親近感が湧いて身近な番組。主演の優心君がすごくかわいいと純粹に思った。生放送では矢野智美アナウンサーが進行していたが、すごく上手だった。桜のシーンがあったが、最初の戦闘シーンでは桜が咲いていたが後半では桜がなくなっていたので、随分前から撮って準備していたのだろうと思った。お金の教育のコーナーだが、子ども達に親御さんがお金の話をするのは難しいことだと思う。安心して見ていられるし、正しいことを教えてくれるので、いいコーナーだなと思う。「アスリートきつず」のようなコーナーは、スポーツをしている子ども達の励みになると思うし、自分が出なくても同じ種目をやっている、知っている人が出ると話題にもなるので、色々な種目をたくさん取り上げて広く紹介するといいと思う。ヒーローのところ、お金の教育、スポーツのことと、すごくバランスが取れていていいと思って見た。他局では全国放送のヒーロー番組を放送していたと思うが、参考までに視聴率などを教えていただきたい。

委員 「らどんぱ！」の「岩手の子ども達を笑顔に、元気に」というコンセプトには、驚くと共に良いことだなと感じた。震災以降に番組を始めたと聞いたが、非常にいい取り組みだと思った。シリーズ6作目で、「ガンフェス」というイベント行っていて、非常に愛されているのではないかと感じた。周りに聞いてみると、みんな鉄神ガンライザーのことを知っていた。岩手に来て間もないため、番組内の方言の話や場所の話は全く分からず、方言がキャラクター名になっていることは今初めて分かった。盛岡市に移って初めての週末に、今思えばガンライザーのような方たちが集まり、公開ロケだったのか、人がたくさん集まっていたのを見た。疑問に感じたことは、「アンパンマン」や「ワンピース」などの有名人気作品から、少しセリフを真似しているようなところがあったように感じたが、ああいうものについてはどこまでが許容範囲か線引きがあるのかどうか疑問に思った。シリーズ6作目ということで、飽きられないようにするために工夫されている点を教えていただければと思う。

委員長 ストーリーと生放送の組み合わせが良く、視聴者とも双方向の感じが出ていたし、1回目ということで盛り上げる意図もあったのだろう。面白い進め方だった。優心君の登場は、子ども達から見れば衝撃的だろうと感じた。チビライザーが出てきて、これは喜ぶだろうという印象を受けた。番組審議会で取り上げられたのは、自分が委員になってから2回目。単発で見せると、委員の方もコメントするのが難しい印象だが、ある程度見ていくと、それぞれのキャラクターの役割とかが分かる。ストーリーも面白くできているし、少し唐突感はあるが、アクションの部分も女性も見やすく、戦うことが必要な場面もあると教えているのかなと思った。ナツタ鬼が初キャラで出てきて、聞き取りにくいセリフがいくつかあり、もう少し聞きやすいといいと思う。何度も巻き戻して見たが、最後まで分からないセリフがあった。パッカー大佐が「1000年前の岩手に戻す」と言っていたが、なぜ「1000年前」なのか。小さい子ども達はどう受け止めているのか、1000年前でもいいのかなという違和感を持った。以前、子ども達に非常に人気のある番組だと聞いていたので、視聴率は聞いてみたい。ナツタ鬼を見た瞬間、どこかで見たことがある気がしたが、何か参考にされているものがあるのか。キャラクターのオリジナリティや類似性について知りたい。全体的に見ると子ども達を元気にという大きなテーマで番組作りがなされているということで、非常に好感が持てる番組だった。

局側 貴重なご意見ありがとうございます。まず、飽きられない工夫はどんなことをしているのかということですが、まさしく番組の大テーマになっておりまして、子どもの気持ちは移ろいやすいものですから、それを続けていくのは工夫が必要です。「ガンライザー」も、ところどころリニューアルを入れながらやっております。最初「ガンライザー」をシーズン3まで、その後は「ガンライザーNEO」に主人公を変えてやりました。その時は東京で活動する役者さんをキャスティングしました。今回は6作目ということで考えましたが、子どもが主人公の特撮を他に聞いた事が

ないので、挑戦しました。歴代のキャスト、キャラクターも全部出演させて、ヒーローが勢ぞろいする「岩手版アベンジャーズ」のような感じのものを今回作ろうと、試行錯誤しながらやっております。初回を皆さんに見ていただきましたが、補足をしますと、通常の「らどんぱ」という番組は生放送ではなく、VTR構成になっておりまして、「鉄神ガンライザー」という15分弱のコーナーを核にして、「アスリートきっず」という5分半くらいの小学生がスポーツをやるコーナーもレギュラーであり、銀行のご協力を得た「お金のなるほど教室」という金融教育のコーナー、ガンライザー情報という握手会やいろいろなイベント情報のコーナー、あとショートアニメのコーナー、いろんなものを組み合わせた形でやっております。今回はイレギュラーで「ガンライザー」に特化しました。初回だけ見ると分からない部分が色々あると思います。優心君が何歳なのかという声もありましたが、新シリーズの情報は2月初頭に解禁しまして、3月にオーディションを開催しました。今度の主人公は小学生ということで募集をかけたところ、80名くらいの子どもが来てくれて、非常に盛り上がりました。優心君はそこで初めて演技をして選ばれたお子さんになります。今小学校3年生で、8歳です。8歳の子に大丈夫かという話もスタッフの中でありましたが、彼のポテンシャルの高さで選んでみました。ナツタ鬼の声役の質問がありましたが、オーディションで選んだ子で19歳の大学生で、将来声優になりたいということです。基本的にはこの「らどんぱ!」という番組は完成度というより、未来への投資という言い方もしますが、子どもに向けて作るのもそうですし、将来そういう世界で頑張りたい人とかを応援していきたいなという気持ちも込めて作っています。多少荒削りで足りなくても、実践で使っていこうという所がありますので、そんな形でキャストイングしております。1000年前に戻す意味の質問もございましたが、過去のシリーズから出演してきたパッカー大佐は実はもう1000歳で、「車も何もない時代こそがいい」「人間は嫌いじゃないけれど、人間ともののけが共存していた世界」がよかったと主張しているキャラクターです。震災復興後に始めた番組ですので、大きいテーマでいえば“共生”をテーマにしています。もののけと人間も共に生きる道がないかというのを5年以上シリーズで続けてきて、まだ結論が出ていない状態です。視聴率の話もありましたが、ざっくり言わせて4%から5%くらいの数字です。高いとみるか低いとみるかは難しいところではありますが、子ども向け番組ということもあり、今年前8時台にやっている仮面ライダーでも5%台前半、戦隊ものでも東京の方では4%をきっている状態でございます。本音を言えばもう少しとりたいのですが、ターゲット層が少子化で少ないので、そのあたりは難しい部分もあります。参考までに他局が同じ放送時間で「ガンダム」をやっているのですが、そちらは2%とるかからないくらいなので、お陰様で支持していただいているのかなと思います。今日いただいたご意見を参考に番組を作っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。